

行藤 宜央

Yukito Norio



真庭青年会議所のメンバー



工作中的行藤さん



行藤 宜央さん(勝山)

勝山出身。(株)三協商建取締役。
大阪で就職した後、26歳のときに家業の会社を継ぐため真庭にUターン。現在仕事では現場の管理などを行っている。休日はよく家族とゲームを楽しんでいる。他にも何か良い趣味がないかなと思っている。

真

MANIWA BITO

庭人

真庭JC最大規模の挑戦

行藤宜央さんは、40歳までの青年で組織される真庭青年会議所(真庭JC)の第63代理事長を務めています。真庭JCではこれまでに、高校生議会や、スポーツフェスティバルなど、さまざまなイベントを企画してきましたが、今年、創立以来最大規模のイベントとなる、中国5県の青年会議所会員が一堂に会する『中国地区コンファレンス』を控えています。「真庭JCではこれだけ大きいイベントはしたことがないですが、どこの青年会議所も人が減ってきているので、小規模なまちでもできるんだという形を、まず僕たちが作りたいと思っています。それに、参加者の皆さんにまた

真庭に行こうと思ってもらえるようにPRをしたいです」と意気込みます。

地元勝山で地域づくり

「勝山の良さは、勝山の町並みの、観光客も来るけどそこに住む人たちがいる風景、そしてその人々の人の良さ」と言う行藤さん。地元を盛り上げようと、平成30年に『勝山・町並み会議』を立ち上げました。「町づくりをされている方は、僕の父親世代やさらに年上の方々が多くて、若いメンバーで町づくりをしたいなと思ったのがきっかけです」と話します。マルシェなどのイベント企画のほか、勝山の幻の銘菓『丸太棒^{まるたんぼう}』を現代風にアレンジして復活させたこともあるそうです。

今後の展望を尋ねると、「人が減っていく中ですが、この景観を維持していきたいです。何もしなければ、いずれ空き家ばかりになってしまう時が来ると思うんです。今、町並みの重要伝統的建造物群保存地区選定を目指して勉強会をしています。空き家を減らし、若い人に入ってもらって、活気ある地域にしたいですね」と話す行藤さん。地元勝山を愛する姿がそこにありました。

